

都市雨水排除技術に係わる国際会議 「NOVATECH 2007」への参加

研究第二部

研究員

前島 亮二



NOVATECH 2007 (International Conference on Sustainable Techniques and Strategies in Urban Water Management) が6月25日～27日にフランス第三の都市であるリヨンで開催されました。この会議は、都市の水管理における持続可能な技術および戦略に関する技術について情報交換と意見交換により研究を深めることを目的とするもので、1992年から3年ごとに開催されており、今回で第6回目となります。下水道機構では、これまでの研究成果を携えてこの会議に参加しました。

会議の構成は、本会議とポスターセッションからなり、大きく三つのテーマ（①都市計画、都市設計と雨水管理の統合した取り組み、②都市雨水流出管理における新技術、③水環境管理と都市雨水流出の影響評価）に別れ、それがさらに細かく25セッションと3ワークショップに分かれています。そのテーマで170のプレゼンテーションが行われ、発表および質疑応答が繰り返されました。

ワークショップにおける口頭発表

ワークショップのテーマは、一次元および二次元のシミュレーションモデルによる都市洪水の評価についてで、下水道機構の岡本研究員が「日本における流出



岡本研究員による発表状況

解析モデルの利活用状況調査および取組事例」について発表を行いました。

セッション会議は、都市雨水排除技術においてより具体的なカテゴリーに分類されており、発表内容も理論的なものから実務的なものまで多岐に渡っていました。

ポスターセッション

会議と平行してポスターセッションが開かれ、都市排水システムのリアルタイムコントロールのセッション内において、目黒副部長が「合流式下水道改善のためのリアルタイムコントロールシステムに関する研究」について発表を行いました。



目黒副部長による質疑対応状況

この会議に参加し、各国における都市雨水排除の状況や研究成果等を学ぶことができました。同時に、多くの海外の技術者に本機構の技術も理解していただくことができたと思います。

また、今回の会議では、シミュレーション結果の報告が多く見受けられました。本機構で出版している「流出解析モデル利活用マニュアル」の必要性を改めて実感した次第です。



NOVATECH会場にて

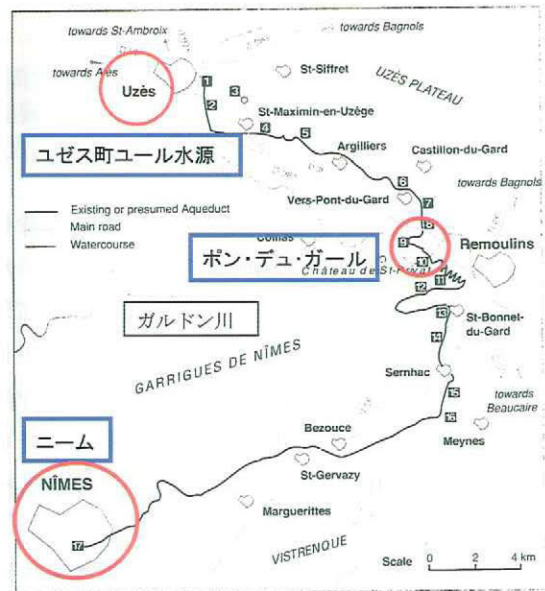
ポン・デュ・ガール（ローマ水道橋）視察

ところで、下水道機構では、新技術の普及に向け「新技術の橋わたし」をスローガンとしており、古代ローマの水道橋「ポン・デュ・ガール」をその象徴としています。

今回NOVATECHの参加とともに、開催地のリヨンからTGVで1時間程度の場所にあるポン・デュ・ガールの視察も実施しました。

ポン・デュ・ガールは、2000年以上前のローマ時代に建設された有名な橋で、ユネスコの世界遺産にも登録されています。南仏の町ユゼスのユール水源とニームをつなぐ水道の一部であり、5世紀ごろまで使われていました。

この水道橋は、当時1日に2万m³（約600万ガロン相当）の水を送水しており、全長は約50kmであったと言われていますが、現在残っているのはガルドン川に架かる275mのみとなっています。ガルドン川に架かる部分は3段重ねのアーチ構造になっており、高さは約49mあります。



ポン・デュ・ガール位置図



ポン・デュ・ガール

最上段の水路は現在閉鎖されていて立ち入ることができませんでしたが、下段通路を通行することができました。

ローマ時代（約2000年前）の橋が現在も変わらぬ姿で残っていることや、水道橋架造の技術に驚かされました。また、アーチのデザインが美しく、周りの風景と見事に調和された素晴らしい景観に感銘を受けました。